

体積豊かな後継雌牛育成技術の確立

飼養技術研究室 生産性向上グループ 羽柴一久、川口泰治、吉村綾乃

背景と目的

和牛飼育マニュアルは①生後8ヵ月齢までの「岡山和牛四ツ☆子牛育成マニュアル」及び②35ヵ月齢以降の繁殖牛の「岡山和牛繁殖牛飼育マニュアル」が示されている。しかしながら、生後9ヵ月齢から34ヶ月齢に関するマニュアルはない。現状ではその間も35ヵ月齢以降の「岡山和牛繁殖牛飼育マニュアル」で飼育されている。

マニュアルを作成！



和牛飼育マニュアルの現状

材料及び方法

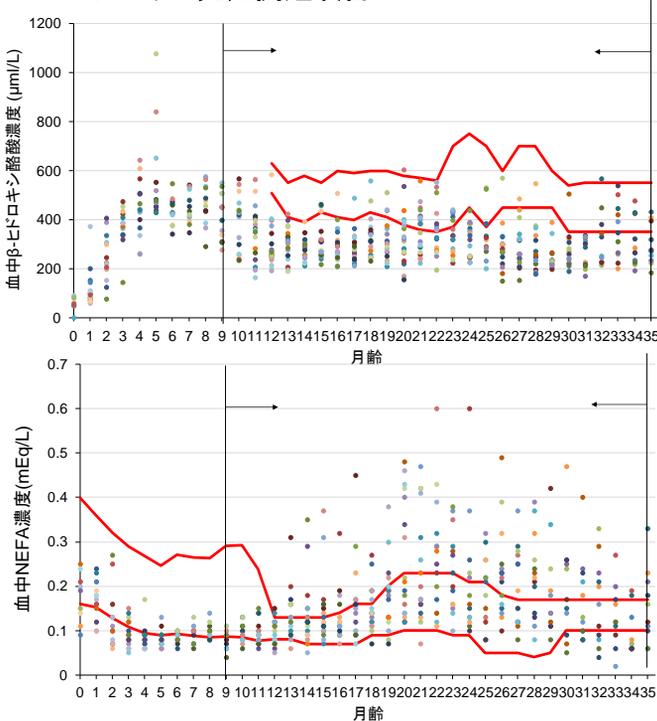
後継雌牛育成方法の実態調査

所内の「岡山和牛繁殖牛飼育マニュアル」により飼育されている初産分娩及び生後35ヵ月齢まで血液の一般生化学分析を用いて代謝プロファイルテストを行った。

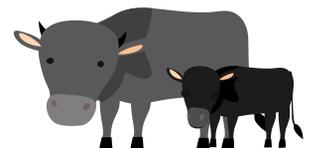
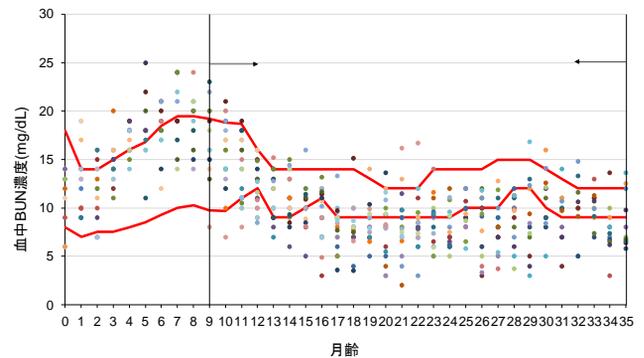
- ✓ 対象家畜: 黒毛和種雌牛 60頭延べ400頭
- ✓ 月齢: 9ヶ月齢から35ヶ月齢まで
- ✓ 採血時間: 午前10:00 から10:30
- ✓ 試験期間: H29年7月～H31年3月まで1ヵ月ごとに採血
- ✓ 調査項目: 飼料摂取量、発育(栄養度、体重、体高、十字部高、胸囲、腹囲)、血液生化学検査
- ✓ 適正範囲: 平成28年1月独立行政法人 家畜改良センター 鳥取牧場の報告を参考にした。

結果

● エネルギー充足関連項目



● タンパク質関連項目



今後

今後は、タンパク質関連項目及びエネルギー充足関連項目が適正範囲に入るよう、タンパク質の養分要求量の充足率をCP100%からCP130%に増量する。また、エネルギー供給不足を改善するため飼料中のNFC濃度を17%から25%に増量し改善する。